

れんけい君

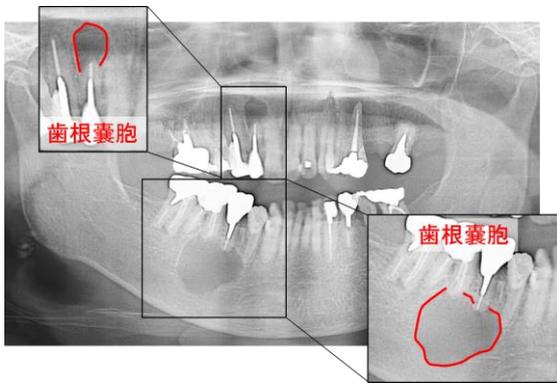
発行元：地域医療連携室

「虫歯について考える② ～虫歯を放っておくと～」 舞鶴共済病院 歯科口腔外科

前回の「虫歯について考える①」で、虫歯が歯髄に及ぶと非常に強い痛みを伴う歯髄炎という状態になることを説明しました。では、そのまま放置するとどうなるでしょう。神経の入口がある根の先端から身体を刺激するようになり、炎症が根の先の周囲に広がり、再び強い痛みを感じるようになります。

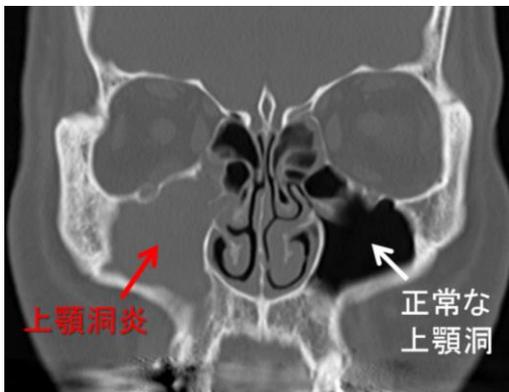
虫歯を放置したケースだけでなく、以前、神経を抜いた（根管治療）歯であっても、何年かして再悪化し根が化膿しだすと生じる場合が時にあります。「以前治療したはずなのに痛くなってきた」というのがこのようなケースです。

そして、以下のような疾患に発展する可能性があります。



歯根嚢胞（しこんのうほう）

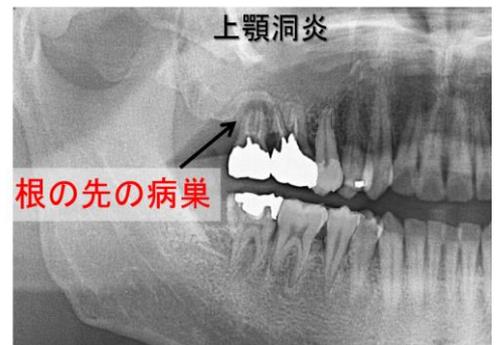
根の先端の炎症を放置しておくと、根の先からバイ菌をばらまき始めます。体は、バイ菌がばらまかれるのを防ぐため袋を作って、その中に閉じ込めようとします。徐々にその袋は大きくなり、腫れや痛みを繰り返すようになります。このバイ菌や膿の溜まった袋のことを歯根嚢胞といいます。
治療法：初期であれば、根の治療をして治します。ある程度大きくなると、手術により取り除きます。



上顎洞炎（じょうがくどうえん）

上顎の臼歯の根のすぐ上には上顎洞があります。上顎洞とは鼻腔と繋がっている空洞で、蓄膿症の時に膿が溜まる部分です。根の先端から出たバイ菌が上顎洞にまで及び上顎洞炎を引き起こすことがあります。上顎洞は、鼻腔の他、眼の近くにある篩骨洞や前頭洞に繋がっており、鼻の症状や眼の奥の痛み、頭痛を引き起こすことがあります。慢性化すると蓄膿症へと悪化します。歯が原因で生じる上顎洞炎は、歯性上顎洞炎といいます。

治療法：抗生剤等により症状を抑え、原因の歯の治療もしくは抜歯等を行います。慢性化し治りが悪い場合は、手術で鼻と上顎洞との通りを良くしたり、口から骨を少し開けて洗浄を行ったりします。



顎骨骨髓炎（がっこつこつずいえん）

歯の根の炎症が更に進んで顎の骨の中まで拡大し、骨髓に感染して顎を腐らせていくことがあります。いわゆる骨髓炎という状態になります。幕末の新撰組の志士で、最後まで生き残った永倉新八は虫歯が原因で骨髓炎となり、敗血症を引き起こし亡くなったといわれています。抵抗力のしっかりした健康な方では、簡単には骨髓炎まで進行しませんし、抗生剤の発達した現代では、十分に治療はできますが、時に緊急入院の必要なケースがあります。

治療法：抗生剤の長期投与、時には長期間入院をして消炎処置や手術を行います。



早期治療や、かかりつけ歯科での定期健診が重要です。皆さん、歯を大切にしましょう。